

林業・木材産業作業安全推進ウェビナー視聴者からの質問への回答

質疑応答の時間に回答のできなかった質問について、以下のとおり、回答します。

質問	回答
<p>先日広葉樹を伐採しましたが、案の定、かかり木になりました。</p> <p>かかり木処理でやってはいけなことが多くありますが、その通りにしていたら処理ができないと思うのですが、石垣様はどのようにされていますでしょうか。具体的には、コナラ林の伐採で、二股に引っかかりました。牽引具も用いましたが、重くて全然びくともしません。元玉切りやかかられた木の伐採をする気持ちはよく分かりました(今は放置したままです)。</p>	<p>掛かった木、掛かれた木の状況（木の大きさ等）が良くわかりませんので、何とも言いようがありません。しかし、「案の定」と言っていますので、掛かるであろうと予想されたということでしょうか。それが正確な受け口を造ってもと言うことでしょうか。</p> <p>元々、予想されているのであれば、掛かれた木を始めに処理しておくことができなかつたのか？その木を処理するわけにいかなかったのか（残しておきたい木？）解りませんが、もし、それを切る訳にいかないものであるならば、あらかじめその対策をしておくべきだったのではないのでしょうか？例えば、チルホールを使用して、方向を調整できるようにして置く事です。</p> <p>掛かるであろうことが予想されるのであればその対策に手間をかけるべきです。起きてからの労力、時間の方が遥かに大きなものになると思います。どうでしょうか？それとも、その技術がないのでしょうか？</p> <p>ウェビナーの時の映像でも解るとおり、予想される事態に対して、ロープを使用した対策を採っております。対象の木に掛けたロープは、5.5m上方に取り付けてあります。これは梯子で行ったものではありません。とは言え、掛かった木を何とかしたいのですが、状況が皆目解らないので、あれこれ書けません。</p>

かかり木処理における、元玉切りと折倒しの違いについて教えてください。

元玉切りと折倒しの違いということですが、木の根元に近いところで行うので、元玉切りと言うのでしょうか。折倒すということでは、やはり折倒しということになるのでしょうか。

イ) 敢えて分けるとすれば、「元玉切り」とは正しく木の元に近いところで、玉切りの様に行うことでしょうか。掛かって斜めになった木の上部から切り込みを入れ、そこに向かった下側から切り込んでいく方法であるとか、立木の伐倒の時のように、上側に受け口を造り下側から切り込み（追い口切り）を入れるというものです。こうした処理方法は大変危険です。

これら等二分法は、折れる木に制動（ブレーキ）が効き難いことと、弦として機能させる部分が正確に造れないことです。弦としての機能が確実に果たせないと、通常の伐倒もそうであるように伐倒方向に対して左右の安定確保ができません。起こし木であれば後方も然りです（大変危険です）。

ロ) 折倒しとして、見様見真似で通常行われているのが、斜めになった木の下側（折っていく前側）から切り込む方法です。この方法で問題になるのは、木の傾きにもよるが、木の自重で折れ込むのを利用して、木が折れ始めても更に切り込みを進め楽に処理しようとするところがあります。これも切り過ぎると左右の安定が保てなくなるのと、制動力が効き難くなります。又、場合によっては、切り込んでいるチェーンソーが木と一緒に持っていかれる可能性もあります。そして、その時同時に作業員諸共ということもあります。その結果、木の下敷きになって、死亡する例が多数あります。大変危険です。

こうしたことから何も方法がないのかということも必ずしもそうとは言えません。要は、通常の伐木同様十分にコントロールできれば可能でしょう。それは、木が折れていく時十分制動力が働き、左右の安定が確保され、それにより退避行動（退避方向、退避路がしっかりしていること）を確実にできる方法ということになります。上記の様な木の下側から切り込みを入れるのは同じですが、木の自重で動き出すまで切らない、その前、手で押してやっと動く程度にしておくことです。折倒しの場合でも確りした弦を造ることが重要です。この弦は通常の伐木の弦とは違います。

上記切り残し部分全てが弦となります。手で押すのが危険であれば、ロープを付け安全な場所で引いて折ればいいでしょう。ただし、この方法は木が痛むので、切り捨てには使えますが、利用目的の場合は不向きです。重ねて記しますが、通常の伐木の弦が全てではありません。